

今週（3月13日から3月17日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は、週半ばで積み期間が切り替わったものの、邦銀業態を中心とした調達ニーズの強さは変わらず、レート水準は一貫して上昇する展開となった。

無担保コールON物の加重平均レートは、前週(3/6~3/10)からの緩やかな低下基調を辿る展開が継続し、13日には▲0.033%となったが、その後は積み最終日に向けた調整から再び上昇に転じ、15日には▲0.023%となった。積み期間が替わった16日以降は、一部で慎重な調達姿勢を取る先も見られたが、基準比率の上昇や貸出増加支援オペの増額などの要因を背景に、引き続き積極的な調達が行われ、16日の出会い水準は▲0.03~▲0.01%近辺が中心なり、加重平均レートは▲0.021%となった。17日は週末となった事で、前日に比べやや上昇する展開となった。

ターム物は、月内エンドのショートターム物を中心に▲0.02~▲0.01%近辺で出会いが散見された。

日銀当座預金残高は、15日に5年債の発行要因により、一時的に減少する場面も見られたが、16日までは概ね520~522兆円近辺で落ち着いて推移した。17日は貸出増加支援オペの影響により大幅な増加が見込まれる。

●レポ市場

今週のGC O/N物は、概ね▲0.10~▲0.08%程度のレンジで推移した。13日から14日は▲0.10~▲0.08%程度、15日以降は▲0.095~▲0.08%程度での推移となった。

SCは、引き続き10年物のカレントからチーペストゾーンの銘柄に特に多くビッドが見られた。

●短国市場

今週の短国市場は、海外要因からか、3Mと1Yゾーンに買いが見られ堅調に推移した。

16日に実施された1Y物の入札は強めの結果となり、結果発表後のセカンダリーマーケットでもしっかりと推移した。17日の3M物入札は強い結果となり、結果発表後のセカンダリーマーケットでは強含んで推移した。金融市場への不透明感が高まる中、期間の短い短国へのニーズが強まる結果となっている。

短国買入オペは、13日に前回と同額の1,000億円でオファーされた。応札額が1,600億円と少額にもかかわらず、全取利回較差+0.004%、平均利回較差+0.004%と、強めの結果となった。

●CP市場

今週のCP市場は、15日、20日の発行集中日があり、週間の発行総額は1兆1,000億円程度に対して償還総額は9,700億円程度と発行超のマーケットとなった。

市場残高は、週を通して大きな変動はなく、27兆円前後で推移した。

発行レートは、概ね0%から若干のプラス圏での出会いが中心となっているが、期間が長い案件については、4月以降の日銀新体制を見据えてかレート水準にばらつきが見られている。

●短期金融市場関連指標

	日経平均 (円)	新発10年物 国債利回り (%)	為替 (ドル/円中心相場)	無担保コールO/N (加重平均・%)	東京レポレート(翌日物・ T+1スタート・%)	日銀当座預金残高 (億円)
3/13 (月)	27,832.96	0.300	134.33	△ 0.033	△ 0.099	5,220,400
3/14 (火)	27,222.04	0.277	133.05	△ 0.033	△ 0.100	5,227,400
3/15 (水)	27,229.48	0.320	134.57	△ 0.023	△ 0.097	5,202,600
3/16 (木)	27,010.61	0.284	132.55	△ 0.021	△ 0.097	5,219,000
3/17 (金)	27,333.79	0.270	133.48	△ 0.016	△ 0.096	5,261,900

来週（3月20日から3月24日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定	海外主要経済指標
3/20 (月)	決定会合における主な意見(3月9・10日分 8:50)		
3/21 (火)	春分の日		米FOMC(1日目) 2月の米中古住宅販売
3/22 (水)	月例経済報告(内閣府)		米FOMC(2日目) FRB 米経済見通し発表 2月の英消費者物価指数
3/23 (木)		流動性供給 5,000億円 3/24発行	2月の米新築一戸建て販売件数 英中銀MPC結果発表
3/24 (金)	2月の全国消費者物価指数(CPI 総務省 8:30)	TB3M 63,000億円 3/27発行	2月の米耐久財新規受注

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
3/20 (月)	0	82,400	82,400	国債補完 CP買入 社債買入	50,000 ▲ 100 ▲ 400		49,500	131,900	国債利払い・大量償還 TB3M発行▲69,000償還60,000 TB1Y発行▲35,000償還27,700 5Y償還17,300 10Y償還42,200 20Y償還6,300 エネルギー対策借入▲7,600期日5,300
3/21 (火)	春分の日								
3/22 (水)	▲ 1,000	2,000	1,000	社債買入 全店共通	▲ 6,500	1,000	▲ 5,500	▲ 4,500	
3/23 (木)	500	5,000	5,500				0	5,500	
3/24 (金)	1,000	10,000	11,000				0	11,000	流動性供給▲5,000
週間合計	500	99,400	99,900	—	43,000	1,000	44,000	143,900	

3/20は日銀予想、3/22以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、引き続き地銀業態からの積極的な調達が見込まれ、▲0.03～▲0.01%近辺で推移することが予想される。債券レポGC T/N物のレート水準は、▲0.10～▲0.08%程度での推移が予想される。短国市場は、24日に3M物の入札実施が予定されている。また、22日に実施が予想される短国買入オペは、1,000億円程度が見込まれる。CP市場は、年度末を目前に控え、事業法人の発行動向が注目される。

主要なイベントは、国内では、22日に月例経済報告、24日に2月の全国消費者物価指数(CPI)、海外では、21～22日に米FOMC、23日に2月の米新築一戸建て販売件数、英中銀MPCなどの発表が予定されている。

◆本資料は信頼できると思われる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。
◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目論見書をよくお読みください。

セントラル短資株式会社 登録金融機関関東財務局長（登金）第526号 日本証券業協会加入